

年季奉公もあけて

この数年、11 月になると幹事長も何かを書け、と言うことで師走の前哨戦みたいな気持ちで幹事長挨拶を書いてきたような気がします。幹事長の任期の間は、研究会の主査やトランザクション論文の編集委員長も終わったのも束の間、本務で専攻長が回ってきて、貧乏暇なしの構図でした。さらに、各種プロジェクトで学生と一緒に OS カーネルを作りながら、直しながら、果ては他大学と共同で CPU チップまで作り、基板実装や FPGA で開発環境や検証環境を作ることまでしました。評論家はいない、自ら手足の動く人達だったので、これは楽しい日々でした。反面、管理運営では、戦後の日本や大学の矛盾を痛感しましたが、大企業はとくにそれどころではなくなっているかとは思います。いずれにせよ、研究者に説明責任は必要ですが、研究の自由を、研究の楽しさを失ったら終わりです。

この 4 年の間に、震災があり、旧国立大学教員も給料削減と思ったら、年末は選挙とか相変わらずな感じです。学会関連は、業績はインパクトファクターをカウントするので国際化が進行、国内の学会は位置付けを明らかにしないとつぶれるだけなのでしょう。頑張っている人は中途半端な会に出ている暇もありませんし、どんどん海外に行きますので、どの国内学会もほんの一部を除いて、投稿数・参加者減は免れないようです。今年も発表申込みはどうなるかと思いましたが、アクティブな若い人たちが声をかけあってくれて、その分野で名の知れた若手が発表申込みをしてくれました。たとえば、私の分野ですと、普段はシステムソフトウェア、計算機アーキテクチャ、高性能計算のそれぞれの研究会において密で深い議論をしていることから、あえてプロシンに来て話そう、と言う方はあまりいないのですが、今年は楽しそうな感じです。他の分野もアクティブな方が申込んでくれたような気がしてしまして、それなりの数が集まり、結果的に一件、発表をお断りしました。

さて、プログラミング・シンポジウムも参加者減などから、任期中にいくつかの試みを行ってきました。休講にしにくい、年始最初の会議に出られない、などから、会期を週末にしました。その結果、箱根の小涌園は使えなくなり、湯河原で 2 年間開催したところ、景気が向上して年初の日程で予約できませんでした。幹事の皆さんのご努力により、結局、今回のラフォーレ強羅を貸切の開催になりました。ラフォーレ強羅はそれほど大きくないのですが、例年 100 人程度なので、ちょうどこの人数だと思っています。

3 年前から導入した査読付講演については、投稿がゼロな年もあり、投稿があっても数件と不調でした。査読付、の意義ですが、論文でもないですし、国内査読付国内シンポジウムは、きょうび、業績リストに書いても評価されないの、この意味ではニーズはないかもしれません。あるとすれば、事前のコメント収集、メンタリングの意味あいですが、さて、手間と内容が引き合うのかはわかりません。

昨年度からの試みは、予稿集・報告集の電子化です。研究会の発表原稿とシンポジウムの電子化は定着しました。今年も予稿集・報告集は電子媒体です。紙媒体は全廃したいところですが、今年も過渡的処置として紙媒体は希望者のみに有料で配布しました。

夏のプロシンはこの数年不調で、夏のプロシンの幹事が毎年必死になって発表者と参加者を探していました。講義回数確保のために 8 月上旬まで講義を行ったらお盆、それが終わると多くの大学で大学院の入試になり、さらに、夏休みに国際会議などに出席しますので、日程は厳しかったりします。夏のプロシン開催は止めたら、の声も出ましたが、地方開催と宿泊を止めてみました。「ビューティフルコード」と言うタイトルで 2012 年 8 月 25 日に IIJ の大会議室で開催しました。都内日帰り開催、聴講無料、何よりテーマと発表内容、幹事が和田 英一先生、久野 靖先生、笹田 耕一さん、山本 和彦さんと言うオールスターに加え、発表もいきなりぶっちぎり、竹内 郁雄先生の「プログラミング美学」ですから、人が集まらないわけがありません。結果的に 170 人近くの参加者がありました。幹事の皆様、ありがとうございました。

第 45 回情報科学若手の会は 2012 年 9 月 15 日から 9 月 17 日に、静岡県伊東市の山喜旅館にて開催されました。幹事の浅野 智之さん、曾川 景介さん、則 のぞみさん、橋本 竜也さん、満永 拓邦さん、山下 美穂さん、どうもありがとうございました。本シンポジウムにおいてこれらの会の報告があります。今後とも活動のご支援・ご協力をお願いいたします。

委員長も交代しましたが、今年で笹田 耕一さん、疋田 敏朗さんが任期を終えます。ありがとうございました。幹事団は長 慎也さん、松崎 公紀さん、三好 建文さん、横山 大作さんが来年度も留任となります。そして、私も今年で幹事長の任期が満了して、年季奉公があけます。皆様の、そして、幹事団のご協力により 4 年間何とか乗り切ることができました。心から感謝いたします。同時に本務の管理運営も任期満了で、やっと研究と実装と教育に没頭できるお正月を迎えることができそうです。次期幹事長は電通大の岩崎 英哉先生となる予定です。

今後ともプログラミング・シンポジウムのご支援とご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。

プログラミング・シンポジウム委員会
幹事長 並木美太郎